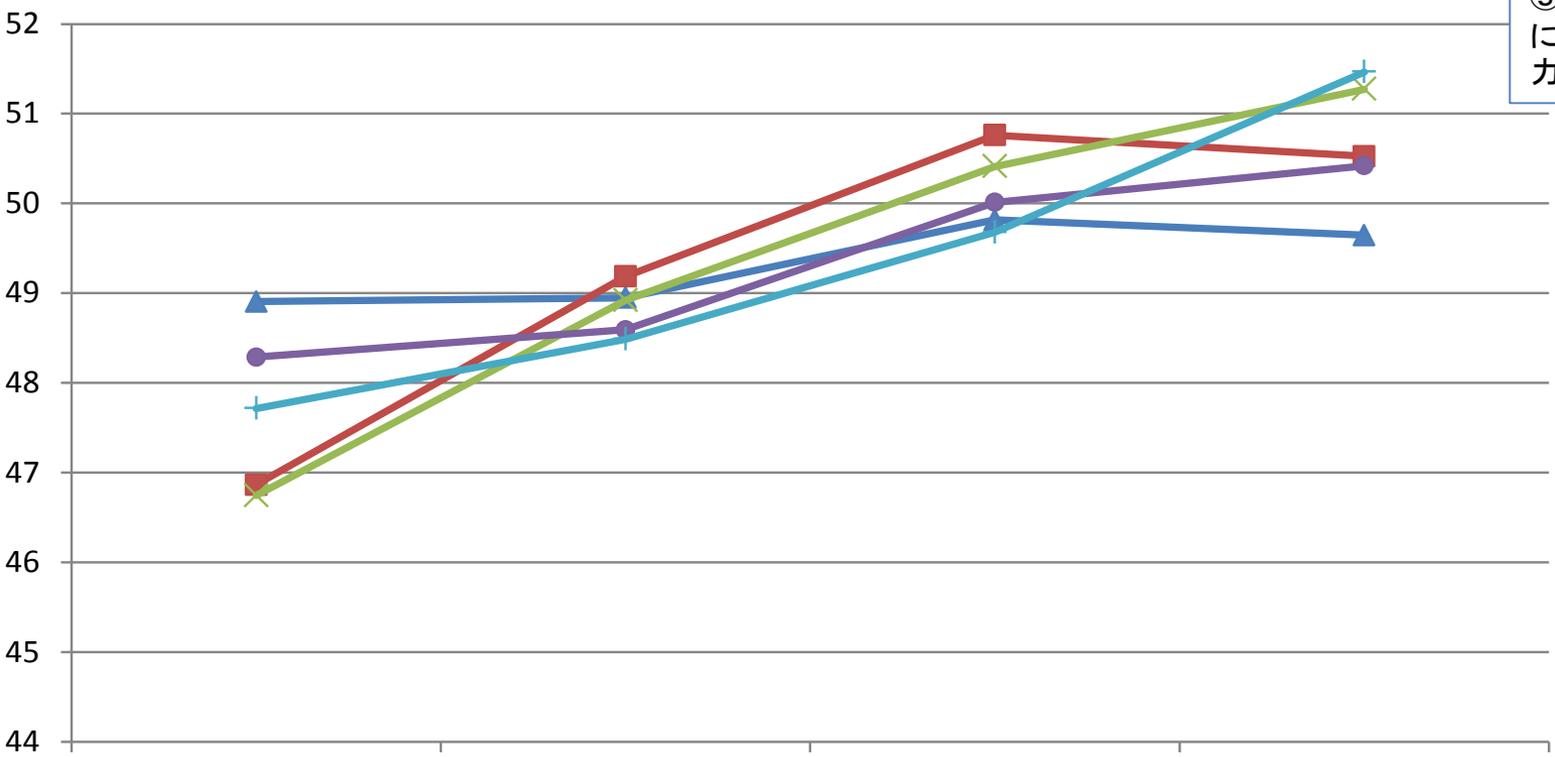


# 京都市町内会・自治会アンケート 2017年分析結果

2017年7月19日

地域力を高める5つの軸  
 ①多様な住民参加  
 ②イベントの活用  
 ③組織の自律力確保  
 ④興味・愛着喚起  
 ⑤あいさつの励行  
 について、それぞれに努力すれば地域力は高まる

地域力: 近所付き合いに関する質問(ちょっとした気づかいやおみやげ物、おすそわけなど)で測った、地域の人々の交流やネットワークの活発さ



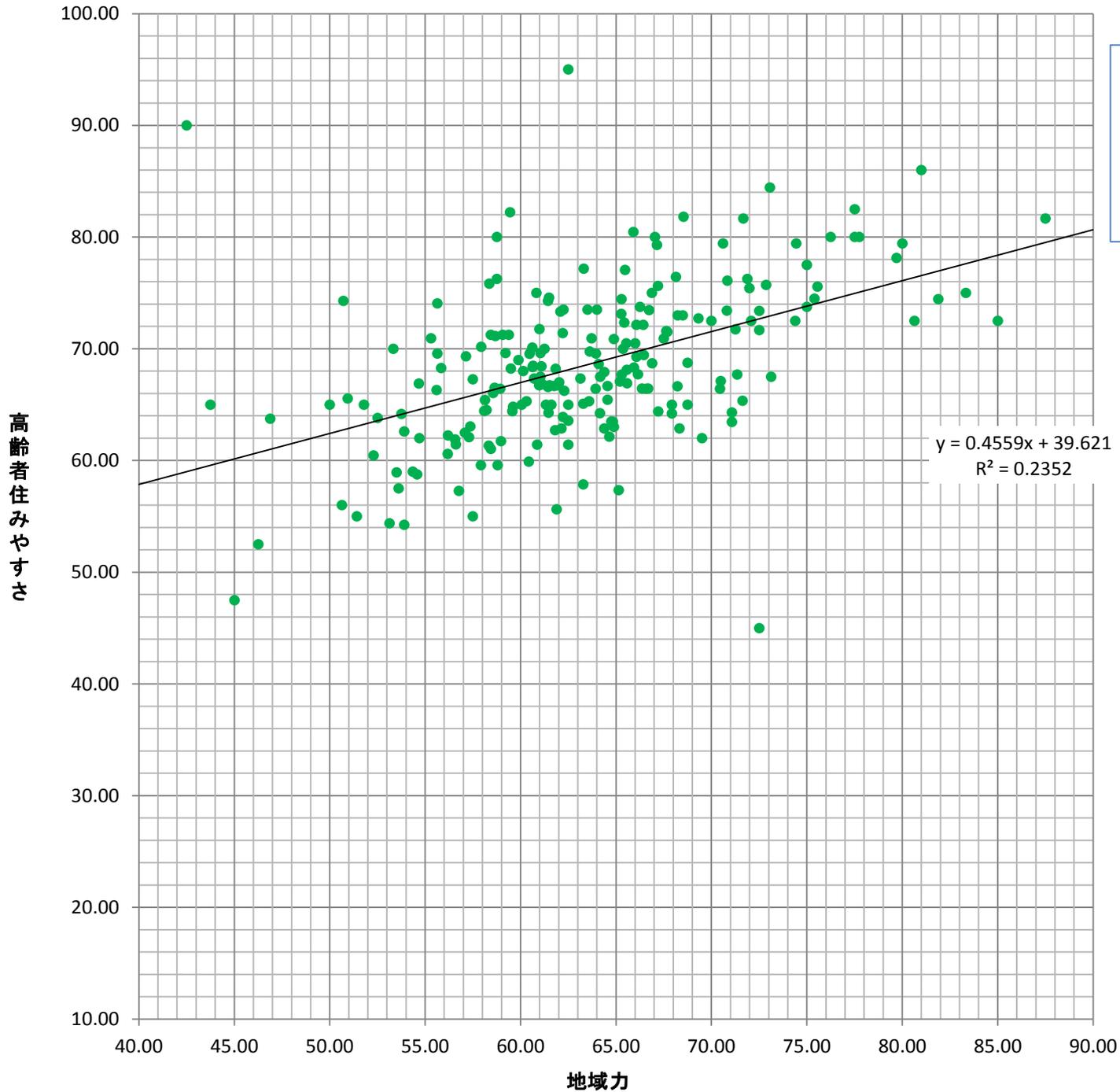
- ▲ 多様な参加
- イベント活用
- × 組織の自律力
- 興味愛着
- + あいさつ

あまり熱心でない

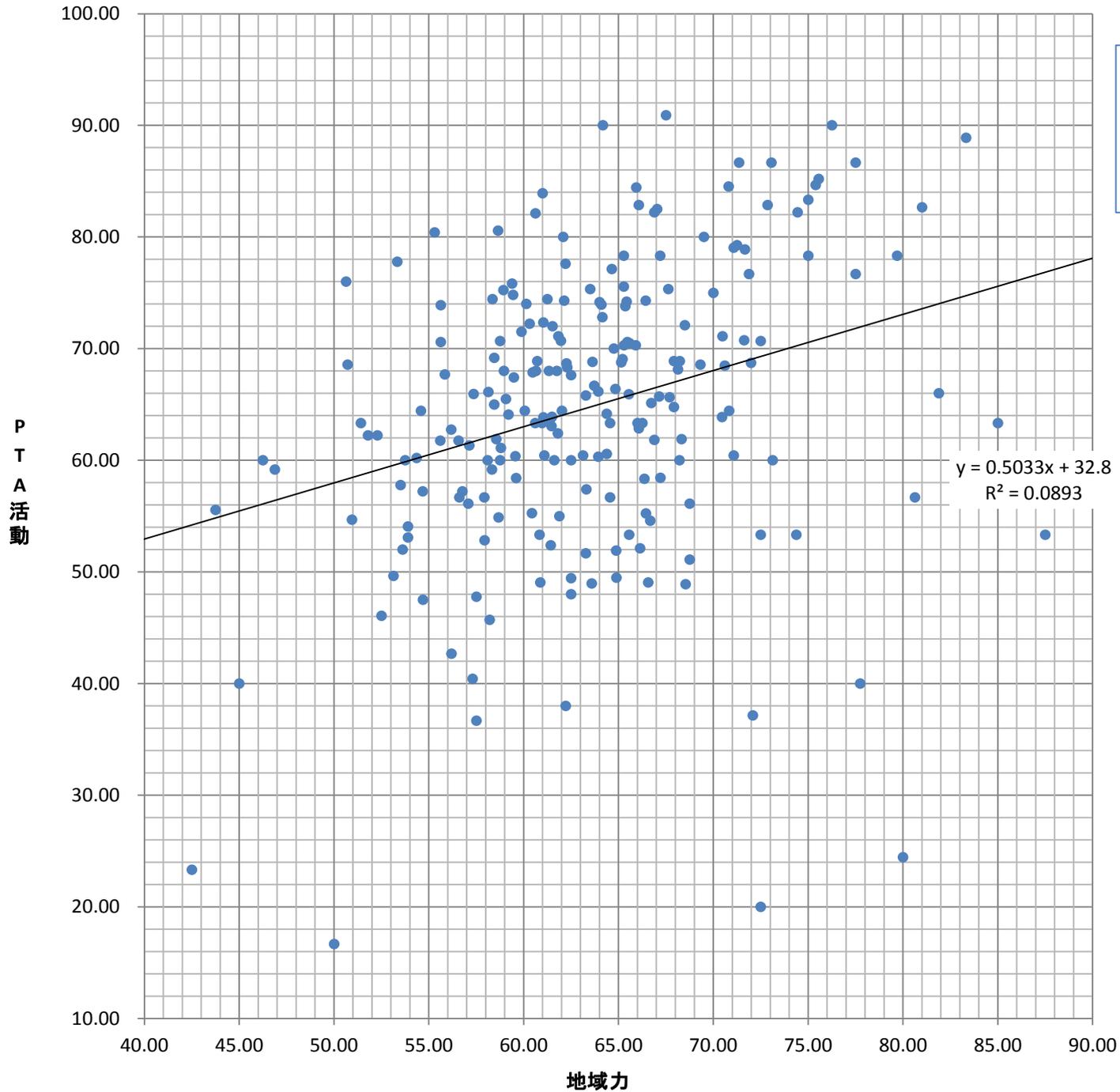
どちらかという熱心でない

どちらかという熱心になっている

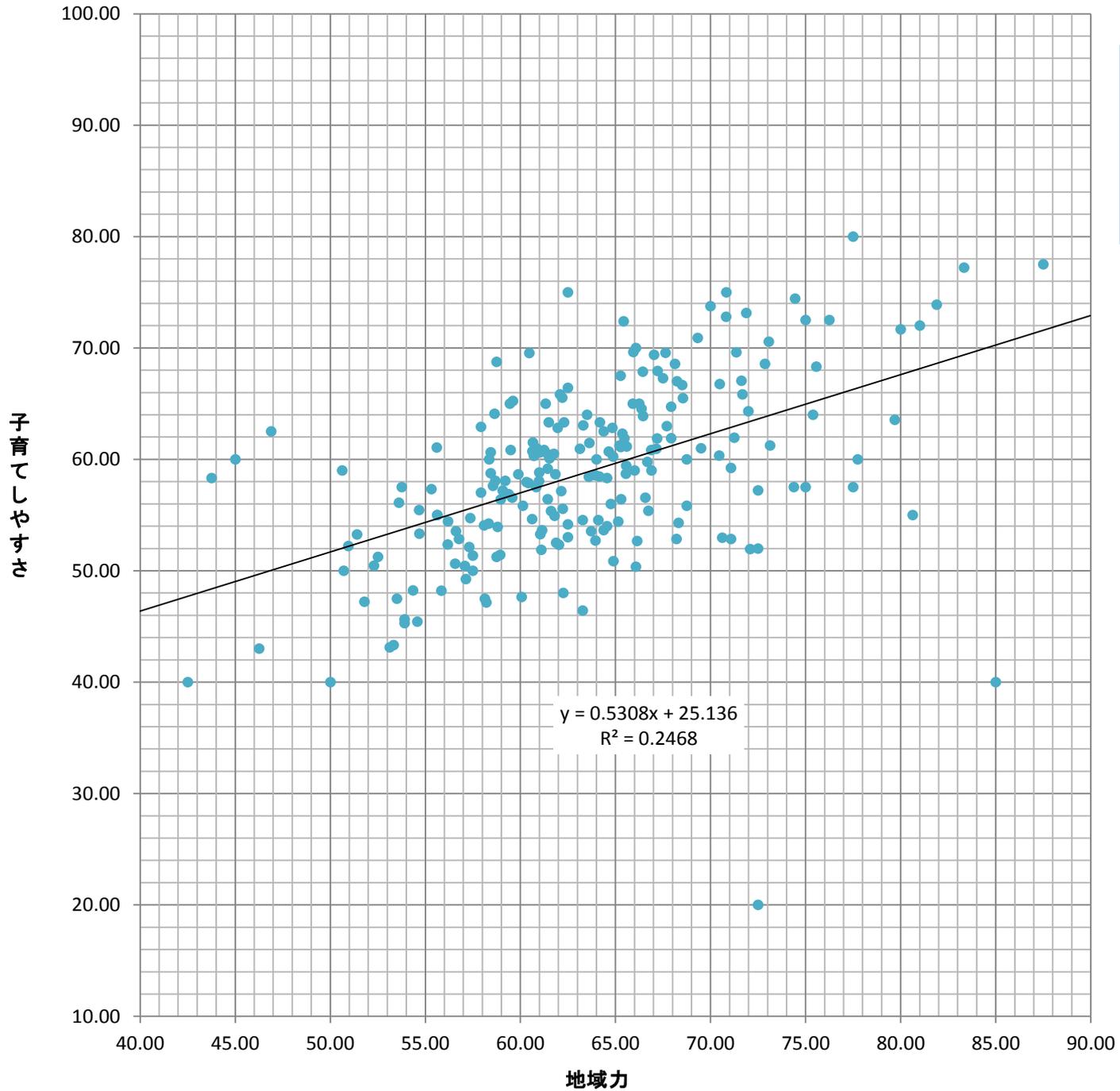
とても熱心になっている



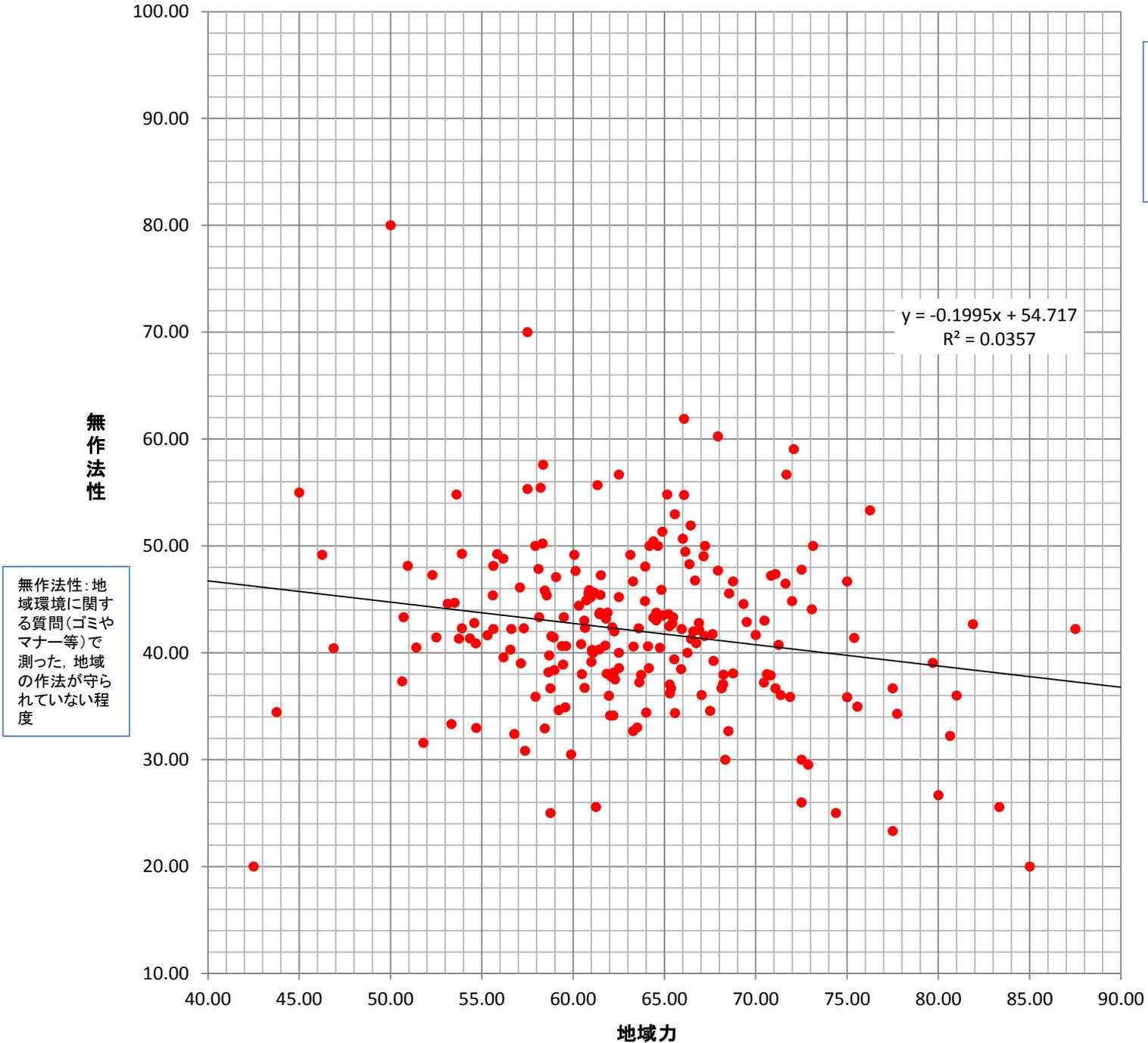
「地域力」と「高齢者の住みやすさ」は正の相関がある。  
つまり、地域力が高い地域ほど、高齢者は住みやすいと感じる傾向がある。



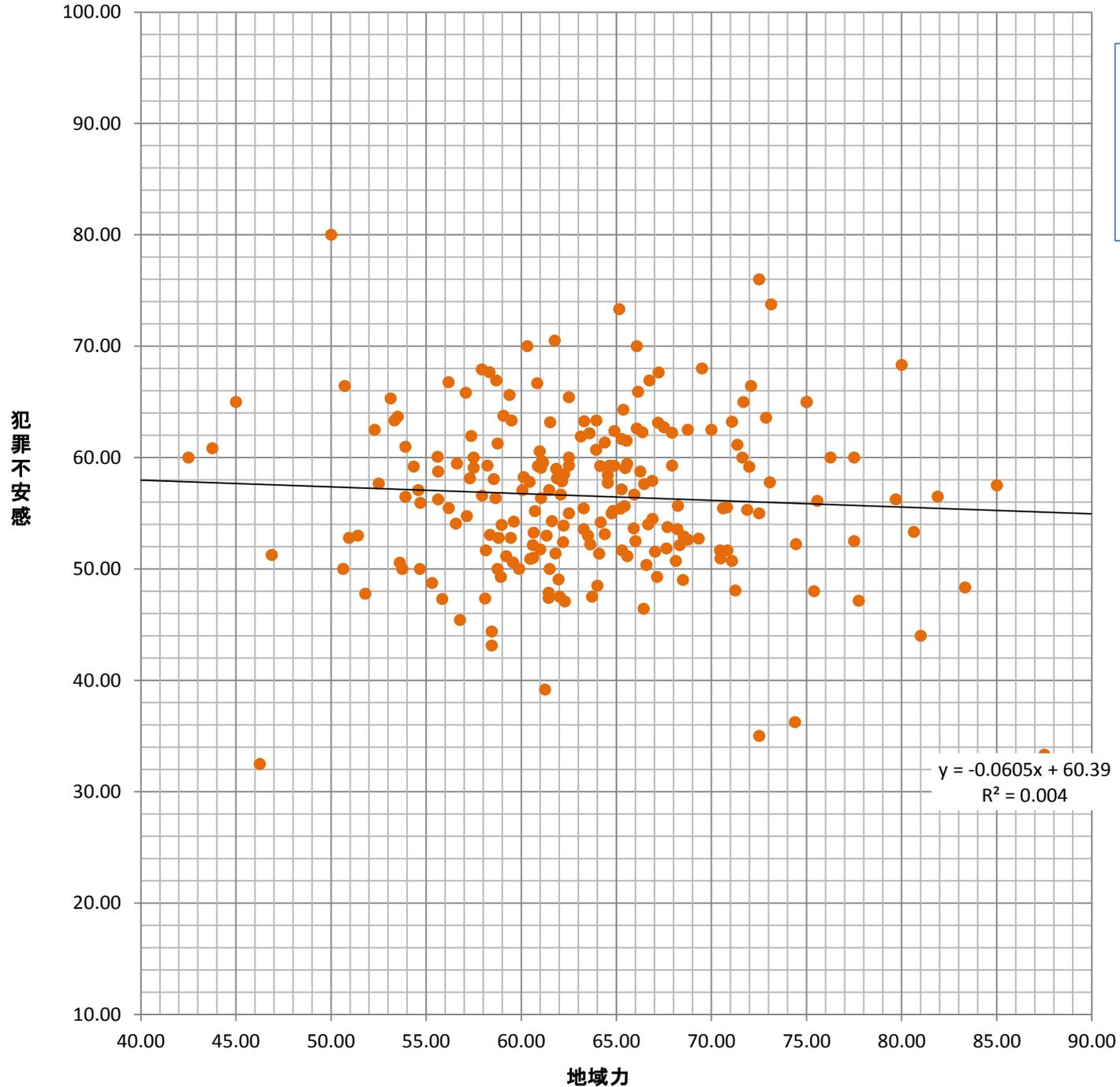
「地域力」と「PTA活動」は  
正の相関がある。  
つまり、地域力が高い地  
域ほど、PTA活動は活発に  
なる傾向がある。



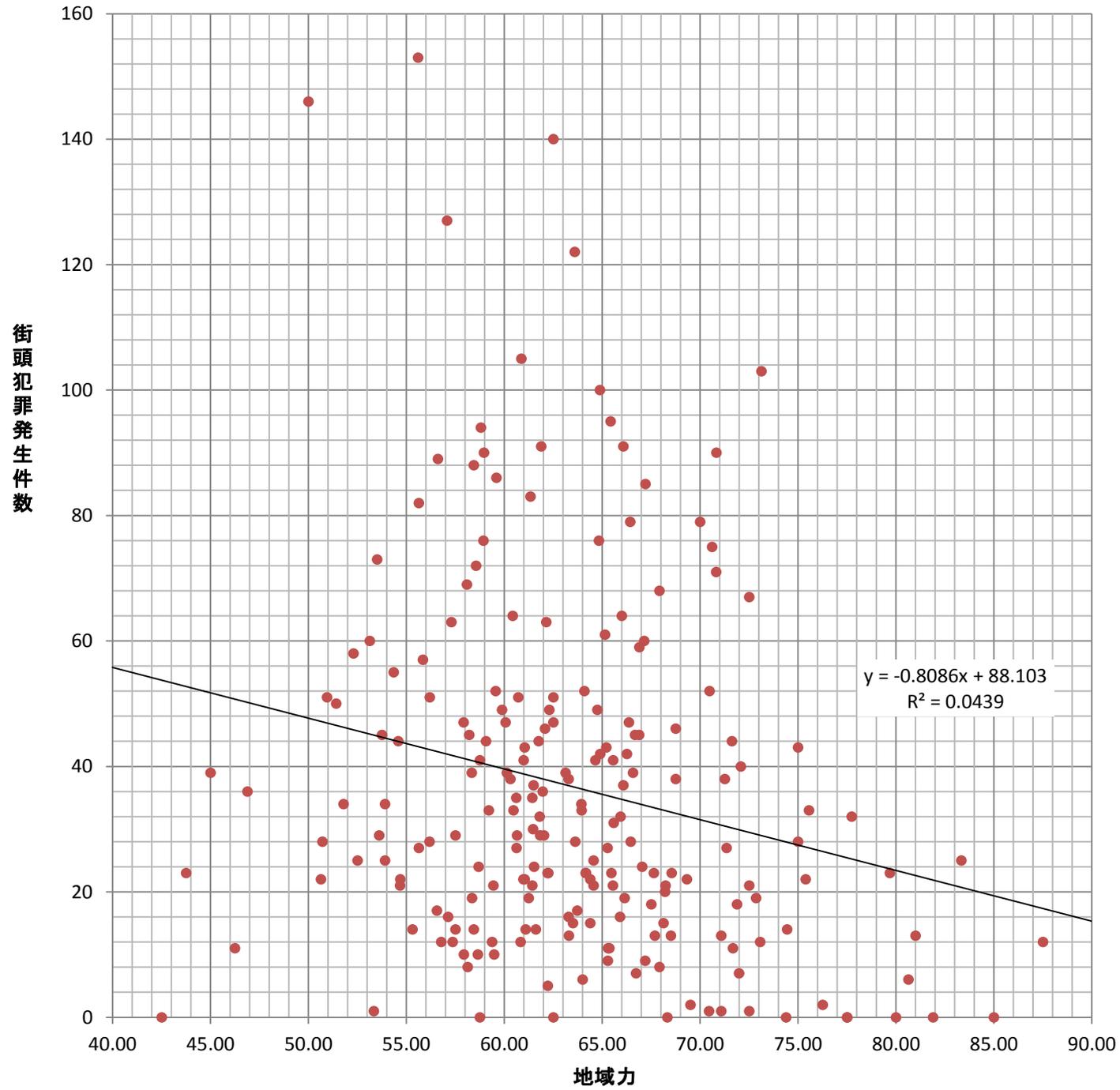
「地域力」と「子育てしやすさ」は正の相関がある。  
つまり、地域力が高い地域ほど、子育てがしやすい地域だと感じる傾向がある。



「地域力」と「無作法性」は負の相関がある。  
つまり、地域力が高い地域ほど、無作法なことが起こりにくい傾向がある。



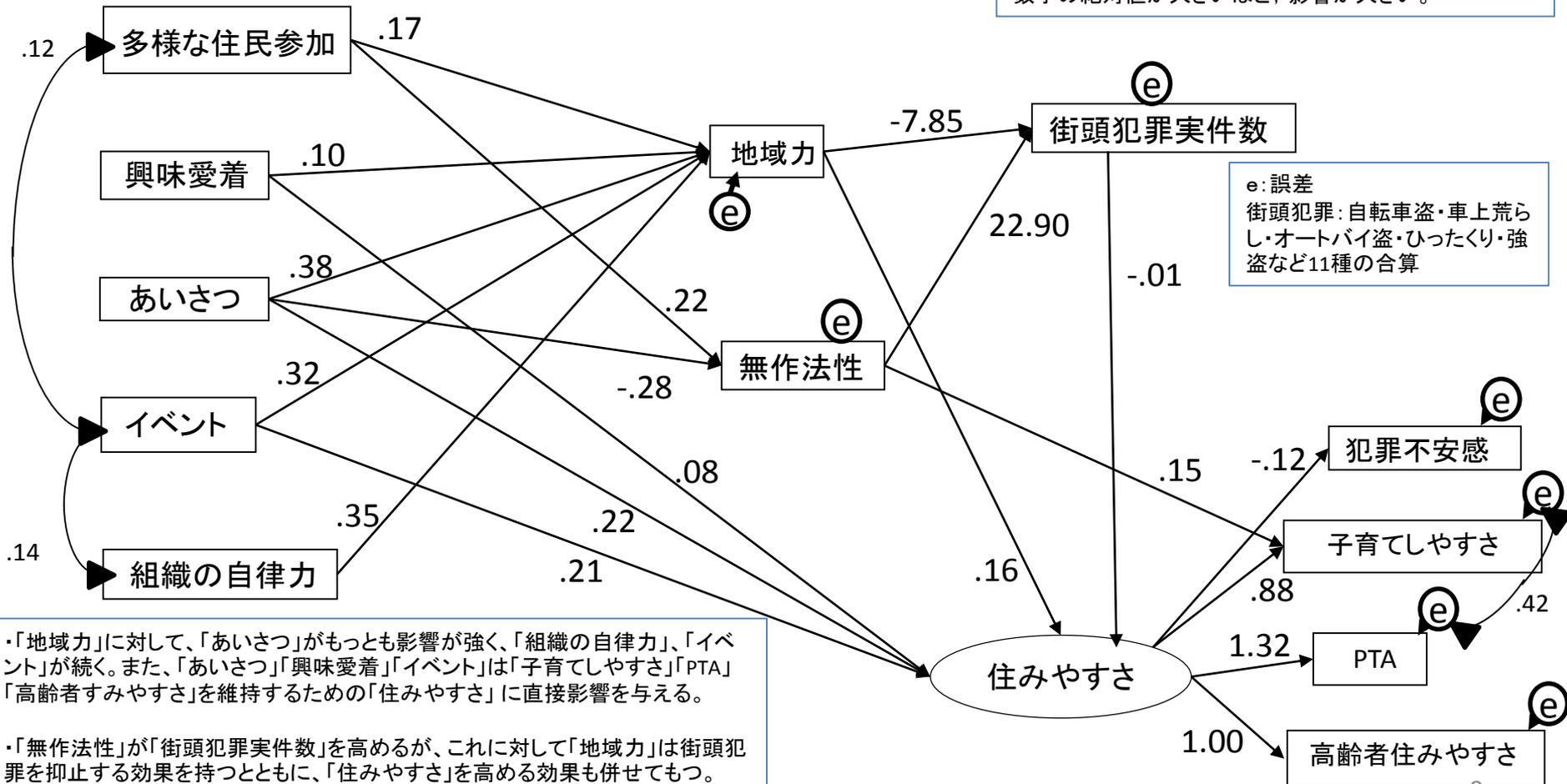
「地域力」と「犯罪不安感」は負の相関がある。つまり、地域力が高い地域ほど、犯罪被害にあう不安を感じる事が少ない傾向がある。



# 京都市2017年分析 model10v3

df=45  $\chi^2=123.636$  p=.000 CFI=.787 RMSEA=.091 AIC=213.636

左側が原因、右側が結果を示している。  
 やじるしが向く方向に、影響をあたえてる。  
 数字の絶対値が大きいほど、影響が大きい。



前回から今回の学区単位での指標の経年変化が、具体的に地域力、子育てしやすさ、高齢者住みやすさに影響を及ぼすのかを検討(パネルデータ分析)をした結果

VARIABLES	地域力	子育てしやすさ	高齢者住みやすさ
多様な住民参加	0.195*** (0.0597)	0.112* (0.0635)	0.0568 (0.0710)
イベントの活用	0.197*** (0.0640)	0.0726 (0.0675)	0.0545 (0.0754)
組織の自律力確保	-0.0438 (0.0724)	-0.124* (0.0747)	0.0286 (0.0835)
興味・愛着喚起	0.00653 (0.0714)	0.159** (0.0739)	-0.177** (0.0826)
あいさつ	0.173*** (0.0557)	-0.110* (0.0588)	0.122* (0.0658)
地域力		0.377*** (0.0722)	0.320*** (0.0807)
無作法性		0.141** (0.0662)	0.0150 (0.0740)
Constant	26.36*** (3.084)	26.10*** (4.522)	35.87*** (5.053)
Observations	418	418	418
R-squared	0.435	0.316	0.213
Number of id	209	209	209

・多様な住民参加、イベント活用、あいさつは、前回から今回での指標の向上が地域力を確実に高めていた。

・子育てのしやすさは、多様な住民参加と興味・愛着の喚起、地域力の向上は子育てのしやすさと連動していた。ただし、組織の自律力確保、あいさつといった、積極的すぎる働きかけは、むしろ子育てのしやすさを下げる傾向が見られた。

・高齢者の住みやすさは、地域力の経年的上昇が住みやすさ上昇と連動していた。また、あいさつの経年的上昇も高齢者の住みやすさを高める傾向が見られた。

Standard errors in parentheses

\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1